

今週（2月1日から2月5日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、税揚げ等の大幅な資金不足要因があったことに加え、月末要因の剥落や、積み期間後半に入ったこと等の要因から、都銀を含む邦銀・証券業態を中心とした取り手の調達意欲が先週に引き続き旺盛で、無担保コールは日を追うごとに強含みの展開となった。無担保コールO/N加重平均レートは、週初▲0.01%台半ばから▲0.01%台前半へと上昇していった。週末5日は3日積みとなり、邦銀・証券業態からの調達で▲0.025～▲0.003%のレンジで出合うなど、更にビッドが切りあがった。ターム物の出合いは、足元金利の高止まりを受け、1～2Wのショートタームで▲0.01%近辺の出合いが中心となった。今週の日銀当座預金残高は、国債の発行や法人税・年金保険料揚げといった揚げの要因が強く、週初490兆円台半ばから週末には480兆円台半ばまで減少した。

●レポ市場

今週のGC T/Nの水準は、大きくレートが上下することなく、▲0.09～▲0.075%での出合いが中心となり、狭いレンジでの取引となった。

SC個別銘柄では、5年133～146、10年338～361、20年167～175、30年59～69、40年8～13などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、動意に乏しい中、既発債で散発的な出合いが見られる程度で、閑散なマーケットとなった。2日に実施された短国買入オペは、10,000億円でおファーされ、平均落札利回較差+0.003%、按分落札利回較差+0.003%と、やや弱めな結果となった。

5日に実施された3M物の入札は、WI取引においては特段の出合いは見られなかったものの、平均落札利回▲0.0942%、按分落札利回▲0.0912%と、しっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.100～▲0.096%出合いと、堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、月初めの週であることから入札案件が少なく、週間の発行総額は2,000億程度にとどまった。償還額も同程度であった。発行期間については、ノンバンク業態で3～6か月と長めの期間があった一方で、製造業を中心とした事業会社では、期内物が中心となっていた。後者に関しては、本決算を控えた期末までの資金不足の調整や、昨年からの発行残高が積みあがっていることもあり、追加調達が不要である発行体もあるものと思われる。発行残高については、良好な発行環境により25兆円台半ばと、引き続き高水準が維持されている。発行レートは、銘柄によるバラツキが大きいながらも、発行頻度が少ない銘柄では深いマイナスレートでの発行も見られた。大半の銘柄は、浅いマイナスレートでの発行が見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
2/1 (月)	28,091.05	0.055	104.68	△ 0.016	△ 0.085	4,941,700
2/2 (火)	28,362.17	0.050	104.90	△ 0.013	△ 0.085	4,925,600
2/3 (水)	28,646.50	0.055	105.02	△ 0.013	△ 0.084	4,854,300
2/4 (木)	28,341.95	0.055	105.02	△ 0.011	△ 0.085	4,862,000
2/5 (金)	28,779.19	0.055	105.54	△ 0.010	△ 0.081	4,856,300

来週（2月8日から2月12日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
2/8 (月)	12月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 12月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 1月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	10Y物価連動 2,000億円 2/9発行			
2/9 (火)	12月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 1月のマネーストック(日銀 8:50)	TB6M 34,000億円 2/10発行			
2/10 (水)	高知県金融経済懇談会において、中村審議委員講演 1月の企業物価指数(日銀 8:50)	流動性供給 5,000億円 2/12発行	エネルギー 対策借入 5,500億円 2/22借入		1月の米財政収支 1月の米消費者物価指数 12月の米卸売売上高
2/11 (木)	建国記念の日				
2/12 (金)		TB3M 67,000億円 2/15発行			2月のミシガン大消費者信頼感指数速報 10-12月期の英GDP速報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
2/8 (月)	400	▲ 6,500	▲ 6,100	国債買入 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完		6,700 ▲ 100 3,000 600 400	10,600	4,500	TB3M発行▲67000償還64300
2/9 (火)	0	▲ 2,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	10Y物価連動発行▲2000
2/10 (水)	0	▲ 9,000	▲ 9,000				0	▲ 9,000	TB6M発行▲38000償還26600
2/11 (木)	建国記念の日								
2/12 (金)	0	▲ 5,000	▲ 5,000	全店共通	▲ 4,000		▲ 4,000	▲ 9,000	流動性供給▲5000 交付税借入▲10000期日10000
週間合計	400	▲ 22,500	▲ 22,100	—	▲ 3,700	10,300	6,600	▲ 15,500	

2/8は日銀予想、2/9以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き資金調達意欲の強さが継続すると考えられ、無担保コールO/N加重平均レートは▲0.01%前後での推移が予想される。また、9日には「2021年2月積み期間に適用する基準比率」が発表される予定となっている。新型コロナオペの金額次第ではあるが、基準比率(現在13.0%)は引き下げられ、10.5~11.5%程度になると予想する。レポ市場は、GC T/Nは今週と同水準の▲0.09~▲0.07%程度での推移を予想する。短国市場は、9日に6M物、12日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。8日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、CP等買入オペが9日に予定されている。また、1月29日に日銀から公表された3月のオペ日程は、1回当たりのオファー額は6,000億円と同額であるものの、実施回数が期末月の慣例である3回から2回の予定に減少していた。総買入額の減少が市場に対してどのような影響を与えるか注目したい。

主要なイベントは、海外では10日に1月の米消費者物価指数、12日に10-12月期の英GDP速報値が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入